報　告

第20回日本義肢装具士協会学術大会

株式会社松本義肢製作所　宮川　拓也

沖縄と言えば、青い海など自然に囲まれた南国の地であり、日本有数の観光地であります。この沖縄の地で、平成25年7月13日（土）・14（日）と第20回日本義肢装具士協会学術大会が行われました。この時、台風7号が接近し飛行機が心配されましたが、みなさんの思いも通じてやや進路がそれ無事大会は開催されました。沖縄という土地柄台風はつきものですが、不安を持ちながらの飛行機での出発となりました。

ところで、まず日本義肢装具士協会とは義肢装具士という国家資格取得者で構成する専門職の団体であり、この学術大会は年に1回開催されます。その内容も、義手や義足に代表される義肢だけでなく、身体の機能障害を補う装具や靴、車いすや座位保持装置などが含まれます。また福祉用具を製作するための医療や製作技術、作業環境などについても話し合われます。

今回の大会テーマは「温故知新」ということで、歴史的な背景のご講演から最新の工学技術まで多岐にわたるご講演がありました。最新の工学技術としてはPhilipp Kampas先生の「オットーボックの最先端技術開発　～ジニウム開発の経験から～」や「ロボット義肢と適正義肢」として株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所アソシエイトリサーチャーの遠藤謙先生の最新の電子制御デバイスのお話がありました。目的を達成するための技術や考え方といった内容もさることながら新しいことに常にチャレンジしていく姿勢にとても感銘を受けました。また、「四肢変形と装具療法－上肢を中心に」として琉球大学　金谷文則先生、「糖尿病性足病変に対する義肢装具士への期待」として神戸大学　寺師浩人先生に疾患等に対する現状を教えて頂き、新しい知識を教えて頂きましたし、われわれ義肢装具士がどうすべきか考えさせられるご講義でした。また、「リハ医が求める義肢装具士～女性義肢装具士に求めるもの～」とした佐賀大学　浅見豊子先生のご講義もわれわれ義肢装具士に訴えかけるものでした。「沖縄戦体験について」、「日本義肢装具士協会20年を振り返り、また、これからの課題」としましたご講演も、大会テーマに沿ったこれまでの足跡から現在、未来を考えさせられました。

一般演題も100以上の発表がありどれを聴くか迷うほどでもあり、会場である沖縄コンベンションセンター全体を使った学術大会となっていました。各企業からのランチョンセミナーも、これまで出ていない企業もあり楽しく聴くことができました。企業展示ブースは、会場によってはとても狭いことも多々あるのですが、沖縄大会の会場はとても広く、ゆったりと過ごすことができます。また、歴史的に価値のある義肢も展示されており、興味深く見ることができました。

本大会は第20回の記念大会でもあり、13日の夜の懇親会はディナークルーズとなり、近郊を船で周遊し懇親会を楽しむことができました。船に乗り込むまでのひとときなど、普段とは違った時間を楽しむことが出来ました。その後食べたソーキソバも思っていた以上に美味しく、島ラッキョウ、チャンプル、ラフテーも美味しく頂きました。

このような美味しい沖縄での第20回日本義肢装具士協会学術大会でしたが、その内容も多岐にわたる「美味しい」内容だったと思います。このような素晴らしい大会を作って頂いた砂田大会長を始めスタッフの方々に感謝致します。

株式会社松本義肢製作所
〒485-8555　愛知県小牧市大字林210-3